



# オンライン座談会

## 「胆振東部地震から3年、被災地の現在とこれから」

### 【開催報告】

#### 概要

平成30年9月6日に発災し、甚大な被害をもたらした北海道胆振東部地震から3年余りが経過。全国的に震災の記憶の風化が懸念される中、被災地において活躍する住民の元気な活動を発信することにより、地震の記憶や経験を次世代へ継承するとともに、全国の支援者への感謝や復興の加速化につなげていくという趣旨のもと、オンライン座談会を開催しました。

WEB会議サービス（Zoom）を活用し、被災した3町のそれぞれ代表者から震災からこれまでの活動状況を発表いただき、その後、関係町長を交え、座談会形式により意見交換を実施しました。

〈日時〉 令和3年11月24日（水）18時00分～19時30分

#### 〈プログラム〉

##### 事例発表

「発災直後からこれまでの取組について」

##### 【発表者】

- ・住民活動団体「つむぎ」代表 …… 村上 朋子氏（厚真町）
- ・NPO法人「とあさ村」代表 …… 青木 明子氏（安平町）
- ・むかわ町まちづくり委員会委員長 …… 奥野 恵美子氏（むかわ町）

##### 座談会

事例発表に関するフリートーク

##### 【参加者】

- ・厚真町長 …… 宮坂 尚市朗
- ・安平町長 …… 及川 秀一郎
- ・むかわ町長 …… 竹中 喜之
- ・北海道胆振総合振興局長 …… 谷内 浩史
- ・上記事例発表者 3名

## 事例発表（主要旨）

### 住民活動団体「つむぎ」代表

#### 村上 朋子 氏（厚真町）



（江別市出身）

- 2008年 看護師やオーストラリアでの医療通訳を経て厚真町に移住。
- 2012年～2016年 厚真町役場勤務 ※地域包括支援センター担当
- 2016年～2021年 厚真町社会福祉協議会勤務  
※震災時は災害ボランティアセンター担当
- 2021年1月 住民活動団体「つむぎ」設立、「あつま元気クラブ」の運営を開始。
- 2021年9月 自宅兼サーフショップ（夫経営）を改装し、「タケカフェ」を開業。

#### ■経 過

- ・震災当時、厚真町社会福祉協議会に在職し、震災後は災害ボランティアセンターなどにおいて被災者の支援に従事。
- ・既存のコミュニティ活動では被災者同士の支え合いの難しさを感じていたが、1年位経過した辺りから住民側にコーディネーターが必要ではと思い始めた。
- ・そして自分自身の老後のことも考え、安心して健康で暮らせるコミュニティを作っておきたいとの思いから、社協を退職し、「つむぎ」を立ち上げ、住民活動を開始。

#### ■活動状況

- ・「つむぎ」のメンバーと共に、中高年の体操や脳トレ、健康学習などを中心とした「あつま元気クラブ」を運営するほか、浜厚真海岸の清掃活動や最近開業したカフェを地域交流拠点とし、元気クラブの婦人が揚げたポテトを提供しながら近所の子ども達の英会話の場にするなど幅広い活動に取り組んでおり、「ゆっくりと20年プランでコミュニティ活動に参加していきたい。」と、今後も意欲を示す。



ビーチクリーン



かごバック作り



英語の勉強



ふらっとカフェ

### NPO法人「とあさ村」代表

#### 青木 明子 氏（安平町）



（札幌市出身）

- 1993年 結婚を機に安平町に移住。
- 2012年～2015年 NPO法人ココ・カラ理事
- 2016年4月 自然体験農園とあさ村開村（翌年NPO化）  
障がいを持つ子どもと農作業に励む。
- 2019年6月 コミュニティサロン「みんなの家」開設  
災害時に障がいのある方が安心して利用できる避難場所とし、普段はカフェやイベント等を通じ地域の方々と交流。

#### ■経 過

- ・障がいのある息子が生活や活動できる場所を生まれ育った地元で作ろうと、自然体験農園「とあさ村」を開村。
- ・コミュニケーションを取るのが苦手な息子に向けていた農作業を行い、知的障がいに配慮した自然農法を採用。
- ・震災の発生後、毎日、ボランティアが手伝いに来てくれたが、電気や水道が使えない不自由な避難生活に混乱する息子の様子を見て、親子で実家の札幌から通う生活を始めた。1ヶ月が経過し落ち着き始めた頃、次の災害の備えを考えたとき、自閉症の人たちは、大勢が避難する場所に長時間一緒に居られないと危惧し、災害時に障がいのある方が安心して居られる場所としてコミュニティサロンを作ることを決意。安平町からの支援やクラウドファンディング等により、JR遠浅駅近くの空き家を改装し、障がいのある方が避難する場所を兼ねた「みんなの家」を開設。

#### ■活動状況

- ・自然体験農園を運営する傍ら、週1度「みんなの家」でカフェを開業するほか、住民等との防災イベントなどを企画。今後の活動に地域おこし協力隊の支援を要望し、町内の別のNPO法人と一緒に地域の課題解決やコミュニティづくりのお手伝いなどへの活動にも意欲を示す。



自然体験農園 とあさ村



ポニーの世話



備蓄を活用した食事体験



防災の日イベント

## むかわ町まちづくり委員会委員長

### 奥野 恵美子 氏 (むかわ町)

#### ■経 過

- ・女性団体として参加した通学合宿の事業中、震災に遭遇。避難所生活を通じて地域でのつながりの大切さを強く感じる。
- ・震災で転居を余儀なくされた仲間との別れもあり、元気でいてくれる仲間同士に感謝をしながら、女性団体活動として、復興イベントや防災研修などに協力・参加。また、全国の女性団体から心温まる見舞金をいただき、この誠意に応えるべく、震災の経験を忘れずに伝えていくため、女性団体で「防災のしおり」を製作。
- ・自分事として災害を考え、防災を意識するようになったことや、震災を通じて多くの人たちの応援とその縁によりつなげる力を伝える町民の一人でありたいと思い、まちづくり委員会委員長を承諾。



〈むかわ町出身〉  
1977年～1980年  
2002年～ 鶴川農協勤務  
2015～2021年 むかわ町女性連絡協議会会長 復興イベントへの協力、防災研修会の開催、独自の「防災のしおり」の作成など防災分野にも尽力。  
2015年～ むかわ町砺波市交流協会理事  
2019年4月 むかわ町防災風呂敷デザイン大賞受賞  
2019年11月～ むかわ町まちづくり委員会委員長

#### ■活動状況

- ・まちの復興をめざす、まちづくり計画の策定のため、町民の思いを盛り込もうと様々なワークショップや住民説明会などを通じて議論を重ね、町民がやりたいと思うまちの姿の実現に向けて、「つながる」まちづくりにしてほしいとの意見を取りまとめ、答申した。
- ・「人とつながる、笑顔でつながる、未来につながるまち」、この3つの「つながり」をまちづくりに、今まで得られた経験やご縁をいただいた方を大切に協力していきたい。」と、今後も一町民としてまちづくりへの参画に意欲を示す。



震災直後の炊き出し



デザイン大賞受賞の  
防災風呂敷



防災のしおり



まちづくり計画  
ワークショップ

## 座談会の要旨

### ■発表者の取組に対する感想など

**谷内** 発表いただいた被災地でのこのような取組は、非常に心強いと思いますが、各町長いかがでしたか。

**宮坂** 住民同士がつながり、自ら行動を起こし、新しいコミュニティを再生していくという目標がしっかり確認できました。コミュニティの再生では、被災者のサポートに行政ができることと、住民同士でなければうまくいかないことのギャップを強く感じていたので、住民が自発的な行動に移す際、行政のバックアップが必要などころは申し出てほしい。

**及川** 地域における課題はいろいろありましたが、共通するところは、人と人とのつながり、コミュニティの再生に重きを置いて活動してきたと思われます。青木さんから地域おこし協力隊の要望がありましたが、遠浅地区などの地区別計画の策定に合わせ行政としても支援していければ。

**竹中** それぞれ目標をもって、活動を一過性に終わらせるのではなく、災害を経験値として踏ん張り、今の活動にもつなげている。やりがいを見つけながら、発表者た

ちの明るさで地域の方に元気を届けていると捉えています。お三方の共通ワード「つなげて、つながる」という活動を行政としても望んでおり、一緒に創造の扉を開けていけたら。

**谷内** それぞれの町長から、取組への感謝と期待といったお話がありました。発表された3名から、それぞれの発表について、聞いてみたいことやエールを送る話などありましたらどうぞ。

**村上** 青木さんの防災の企画で何か一緒にやってみたい。また、メンバーの中に障がいのある子どもを抱える安平町の方がいますので、そうしたつながりも次の発展にいかしていきたい。

**青木** 今後、地域食堂を通じて地域の方とつながりたいので、村上さんからの協力をお願いしたい。奥野さんのむかわ町は旬の魚と野菜を使ったお漬け物とかもあるので、つながって「みんなの家」で地域の方と一緒に何かできたら。

**奥野** 震災時に避難所で生活していたとき、乳幼児や認知症を持つお年寄りが避難されてきて大変だったことがありました。自分の身内にも障がいのある子どもがいますので、青木さんの施設を見学に行き、今後、住民団体とも交流しながら地元にも広めていきたい。

## ■これまでの経験や取組の発信

**谷内** 道内外、他の地域から、被災後の経験や取組について、講演など依頼を受けたことはありますか。

**村上** 今年の夏、東京の千代田区の社協から、コミュニティというテーマでお話をさせていただきました。

**青木** 団体からの依頼はありませんが、障がいのある家族がいる方などが来られたときに、何度もありました。

**奥野** 富山県の砺波市に出向いた際、交流団体の会員の方から、老人クラブで防災の話をするので参考にしたいと頼まれ、食事もそっちのけでお話したことがありました。

**谷内** 我々振興局に、道内の他自治体あるいは道外から、胆振東部地震の経験や震災後の取組などを聞かせてほしいと問い合わせがあった場合は、皆様方の活動を紹介したい。また、直接お願いされることがありましたら、どうかご協力をお願いします。

## ■今後の取組の展望

**谷内** これからこんなことをやってみようと考えていることがありますか。

**村上** 自治会の自主防災組織にも関わり、小学校と地域探検や地域の防災マップづくりなどを手がけています。住民と学校が連携して防災に取り組むことや災害時に支援を必要とする方への福祉の視点を子ども達に持ってもらえる取組などにも、今後、自治会の方々と取り組んでいきたい。

**青木** やっと農園の方が落ち着いてきたので、これからは遠浅地区の方々とつながりながら、「みんなの家」の活用などを広めていきたい。障がいのある方々にとって日常生活の場に居場所が必要で、その居場所が災害時には避難の場所、そういう場所が安心できる場所ということを発信していきたい。

**奥野** 来年8月、日本風呂敷協会とのご縁で「全国こども風呂敷学校」がむかわ町で開催されます。中学校の防災学習といった取組をその時だけで終わらせないで、必ず何か紐づけて、子ども達にも防災風呂敷を使える人になっていただきたい。その手段として、風呂敷を使った取組に私も関わりたい。また、本日、お知り合いになれた発表者のお二方とお会いして、つながってきたい。

## ■各町の取組方向

**宮坂** 胆振東部地震以降、コロナ禍で自然災害に遭遇した場合の対応や女性、子育て世代、支援が必要な方々の避難方法など、防災における多様な視点の重要性を強く感じました。これまで防災会議などに、様々な立場の方に委員として参加していただき、後回しにしていた課題も掘り起こすことができています。今後、住民の立場から、さらに議論を重ね、整理したうえで積極的に情報を発信していきたい。



**及川** 胆振東部地震以降、熱海の土砂災害など、様々な災害が多発しています。3年も経つと胆振東部地震は全国の皆さん方からは相当昔のことと感じられているのではないかと思います。仮設校舎の早来中学校は、来年秋の完成をめざし、小中学校の一体型義務教育学校の建設を進めていますが、早来の町民センターは耐震化されていないため、令和6年度に改修しその中で合宿所の機能も付け加え、大きな避難所での生活が困難な方の個別避難への活用を含めて、引き続き大きな対策を行っていきます。



**竹中** 3町それぞれ被害の程度は違いますが、間違いなく復興という姿は見え始めているかと思われます。とりわけ、3町が共有する前例のない4千ヘクタールを超える森林の再生、全国での復興のモデルケースになるよう、3町、力を合わせて三つの矢として再生を目指していかなければならない。これまでご支援いただいた方々への感謝の思いとして復興の姿をご覧いただければ。



**谷内** あっという間に予定の時刻がまいりました。インフラ整備はある程度順調に進んでおりますが、森林の再生はまだまだ時間がかかる取組です。本日のお話にありました、地域コミュニティの維持、再生、活性化というのは、継続的に取り組んでいかなければならないことであり、人のつながりとか、ネットワーク、横のつながりは、非常に重要な意味を持つ取組であります。振興局としても、住民が安心して暮らせるコミュニティづくりに支援していきたい。また、被災地の取組を広く発信できるようなことや被災地のファンが広がっていくような取組を行っていきたい。

